



「まちに開かれた芸術文化拠点」を目指す京橋彩区が開催する芸術文化講座。第5回は1月18日に開館したアーティゾン美術館(旧ブリヂストン美術館)のサイン計画を担当された廣村デザイン事務所の廣村正彰さんをお招きします。

廣村さんからは「美術館という空間におけるサインのあり方、サインがどのようにして人へ情報を届けるのかなど、いくつかの事例と共にデザインのプロセスをご紹介します。また同時にピクトグラムの機能と役割についてもお話ししたいと思います」とのメッセージをいただいています。

< 第5回 >

意識に届くデザイン

— 美術館のサイン計画とピクトグラム —

日 時： 2020年3月18日(水) 18:30～20:00

会 場： ミュージアムタワー京橋 16階 Café16

定 員： 70名(申込み順)

参加料： 無料

申込方法： お名前をご記載のうえメール (seminar@kyobashi-saiku.tokyo) にてお申し込みください。

Peatix (<https://peatix.com/event/1428195>) からの申し込みも可能です。

Peatixからの
お申し込み



< 講師 > 廣村正彰氏 (グラフィックデザイナー)

愛知県生まれ。田中一光デザイン室を経て、1988年廣村デザイン事務所設立。グラフィックデザインを中心に、美術館や商業、教育施設などのサインデザイン、CI、VI計画を多く手がける。

主な仕事に、横須賀美術館、9h ナインアワーズ、東京ステーションギャラリー、すみだ水族館、台中国立歌劇院、鉄道博物館、アーティゾン美術館、そごう・西武、ロフトのアートディレクション等。

<http://www.hiromuradesign.com>

今後の予定 第6回は5月に予定しています。講師や日時などの詳細は決定次第、京橋彩区のウェブサイトに掲載します。